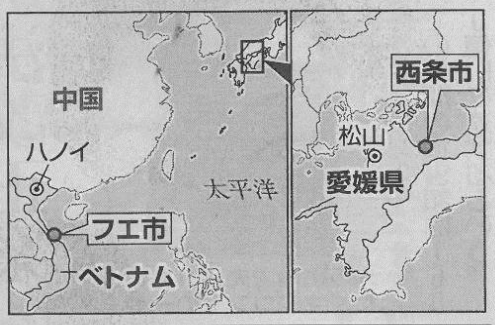
防災教育ノウハウ提供

愛媛・西条から ベトナムへ

2004年9月の台風で住民5人が死亡した愛媛県西条市は、小学生を対象に実施している防災教育のノウハウを、新年度から、洪水に悩まされてきたベトナム中部のフエ市に提供する。少ない費用で防災意識を高める効果が期待でき、国連・国際防災戦略（ISDR）の冊子にも紹介された内容。市は「西条発の試みが、世界の防災力向上につながれば」としている。

台風の教訓 水害に活用

防災キャンプで土石流の発生する仕組みを学ぶ子どもたち（2010年8月、愛媛県西条市の市立多賀小で）



「防災キャンプ」「子どもサミット」

04年の台風21号では、愛媛県内の各地で土砂崩れが発生、河川も氾濫して、同市を含め14人が死亡した。

この災害を教訓に、市は全25小学校で防災教育を始めた。6年生が夏休みに校内で「防災キャンプ」をし、豪雨や地震、土石流などの起こるメカニズムを教員ら手作りの教材で学ぶほか、救命訓練や炊き出しを体験。災害に備えた取り組みを発表し合う「子ども防災サミット」も年に3回開いており、これまで延べ5000人が学んできた。

防災教育はインド出身のラジブ・ショウ京都大准教授（国際環境防災マネジメント論）が指導。ショウ准教授は、1999年の大洪水で約400人の死者が出るなど水害があったフエ市での調査・研究も続けており、西条市に協力を求めた。両市は、山と海に囲まれた地形が似ているという。

市には国際協力機構（JICA）が3年間で計2800万円を支援。今夏に市の防災担当職員ら約10人がフエ市を視察し、その後の2年間で、現地の実情に合った防災教育を立案し、教員らを指導する。担当者は「両市で学んだ子どもたちが知識をより深め、将来は防災のリーダー的存在になってくれれば」と期待している。

平成23年2月22日　読売新聞　35面（全国版）